

2 授業改善公開授業 指導略案および概念化シートについて

専門性向上部

令和6年9月30日（月）から11月1日（金）までの間、「キャリア教育の視点から豊かな生活をめざして～環境把握/やりがい・生きがい～」をテーマに授業改善公開授業を実施し、各学部学習グループより公開授業を行った。授業一覧は、以下掲載のとおりである。指導略案もしくは学習指導案に、授業後に実施した概念化シートを掲載した。

●授業改善公開授業内容一覧表

学部	学習グループ	月日	曜日	時限	教科(授業名)	場所	授業内容
小学部	AB 低	10月28日	月	3・4	せいかつ	CR6	トマトを知ろう
小学部	AB 高	10月24日	木	5・6	からだ	多目的ホール	からだをほぐそう、サーキット運動で、からだを動かそう
小学部	C 低	10月2日	水	3	かず	CR1	くらべてみよう
小学部	C 高	10月7日	月	6	集団	CR2	カラーボッチャ
中学部	DE	10月24日	木	2	自立活動 【職業家庭・理科】 (朝の会)	CR9	おはようの歌、身だしなみ、出席確認、日付、天気、予定
中学部	FG	10月3日	木	5	職業家庭	CR7・8	机拭き清掃技能検定(練習)
高等部	DE	10月24日	木	1	職業家庭	CR11・12	朝の会(日付・日課・健康確認)
高等部	F	10月11日	金	5	情報	理科室	視覚情報を整理しよう Word、Excel の活用

「せいかつ」学習指導案

大阪府立中津支援学校

T1 村上 友紀子 (作成者)

T2 佐柳 享子

T3 新開 有記

T4 二反田 松申

T5 藤岡 厚

1. 日時 令和6年10月28日(月) 第3, 4時限(10:45 ~ 11:30)

2. 場所 CR6教室

3. 学部・学年・組 小学部 第1・2・3学年(AB低グループ) 6名

4. 単元(題材)名 生活 「トマトを知ろう」

5. 単元(題材)目標

(知識・技能) 買い物の方法がわかる。

トマトの感触、匂い、味等を知り、トマトに自ら手を伸ばす。

(思考・判断・表現) 買い物で、品物を選ぶ。

トマトの感触、匂い、味等を体感し、自分の思いを表現する。

(主体的) 買い物の場面で、手本をみて同じようにしようとする。

自らトマトの感触、匂い、味等を感じようとする。

6. 単元(題材)の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 買い物の手順に沿って、簡単な決まりを守りながら買い物をすることができる。	① 買い物で、品物を選ぶことができる。	① 見本を見て、買い物をすることができる。
② トマトの感触、匂い、味等に気づき、トマトに手を伸ばすことができる。	② トマトの感触、匂い、味等に触れ、思いを表情や発声、身ぶり等で表現することができる。	② トマトの感触や、匂い、味等を自ら感じようとすることができる。

7. 児童生徒観

本学習グループの児童は1年生3人、2年生1人、3年生2人の児童の6名が在籍している。様々なことに対して好奇心旺盛であり、特に買い物などの体験的な活動では積極的に取り組む様子が見られる。普段の活動では言葉での簡単な指示を聞いて動いたり、他者の様子を見て真似たりする等、身近な人々や自分の身のまわりを意識する様子が見られるようになってきた。

せいかつの授業では、年間を通して季節を感じられる活動を行っている。その一つに畑作業（単元・通年 草花や作物をそだてよう）がある。本単元では、1学期に苗を植え、水やり等の世話をして育てたトマトを教材として使用し、実際に触り、匂いや感触等を感じる体験を通して食物に慣れ親しむ経験を積んでいきたい。また本校の児童は食物に触れる経験が少ないことから、簡単な調理を通じてトマト等の食物が普段の食事につながっていることに気づく機会にしたい。

8. 単元の指導と評価の計画（全3時間、本時は第3時）

次	時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第一次	1	○買い物の方法を知る。 ○買い物の練習をする。	・カーテンを閉める等の環境整備や、座席位置の配慮及び確認をし、電子黒板に注目しやすいようにする。 ・店内のどこにトマトが売っているかがわかりやすいよう店内の動画を提示する。 ・購入する際の手順を確認することで、必要な物を理解し、買い物の持ち物をイメージできるようにする。	A①(児童観察) B①(児童観察) C①(児童観察)
	2	○買い物に行く。	・出発する前に購入する物、買い物の手順などを再度確認し、イメージをもって買い物ができるようにする。 ・買い物をする際は、児童がトマトや手元等に注目しやすいよう、提示の仕方や言葉がけに配慮する。	A①(児童観察) B①(児童観察) C①(児童観察)
第二次	3	○トマトを知る。 ○トマトの味見をする。	・児童の実態に応じて、トマトを見る、触る、へたを取る、匂う、皮をめくる、切る等に取り組み、トマトの感触を楽しめるようにする。 ・カメラで撮影することによって、試食の振り返りができるようにする。 ・環境整備や座席位置の配慮及び確認をし、電子黒板に注目しやすいようにする。 ・感染症対策マニュアルに則り、手指の消毒や距離をとることに気を付けて食べる。	A①(児童観察) A②(児童観察) B①(児童観察) B②(児童観察) C①(児童観察) C②(児童観察)

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

- (知・技) トマトの感触、匂い、味などに触れ、トマトに自ら手を伸ばす。
見本を見て、トマトの皮むきや包丁で切るなどの調理をする。
- (思・判・表) トマトの感触、匂い、味などに気づき、自分の思いを表現する。
見本を見て行った作業の中から、自分のしたい作業を選び、伝える。
- (主体的) トマトに興味を持ち、自ら手を伸ばして触れようとする。
自分の興味のある作業を自ら行おうとする。

(2) 本時の評価規準

- (知・技) トマトの感触、匂い、味などに気づき、自らトマトに手を伸ばす。
手本に注目し、トマトの皮むきや包丁で切るなどの調理の作業ができる。
- (思・判・表) トマトの感触、匂い、味などに気づき、自分の思いを、表情や発声で表現する。
自分の行いたい作業を選び、伝えて行う。
- (主体的) トマトに興味を持ち自ら手を伸ばす。
自分のしたい作業を伝え、自ら行う。

(3) 本時の ICT 活用のポイント (活用のねらい、工夫する点)

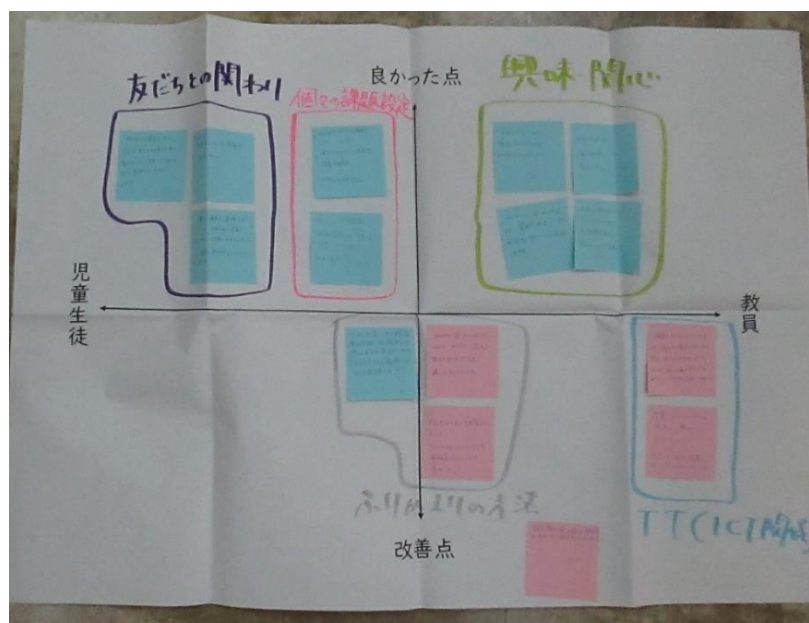
- ・ トマトに触れている場面を写真に撮り、授業最後の振り返りで使用することで、友だちの様子を知り、友だちを意識することができる。
- ・ 電子黒板が画面注目しやすいことから、作業工程を映し理解を深める。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
10分 導入	はじまりのあいさつをする。 (はじまりのうた) 活動内容を知る。	・ 授業の始まりを意識できるような言葉かけをする。 ・ 前回に行った買い物の復習を通して、トマトについて学習するということを提示する。	

25分 展 開	・ トマトに触れる 触る、潰す、匂いを嗅ぐ ・ 調理の練習 へた取り、皮むき、スクレップ ーで切る、マッシャーで潰す ・ 振り返り 写真を見る。 様子を発表する。 ・ 試食 「トマトペースト、 トマトジュース」	・ 一人一つの手に取りやすいトマトを用 意する。 ・ 児童が選びやすいように数種類の道具 を用意し、主体的に取り組めるようにす る。 ・ 調理実習マニュアルに則り、手指の消毒 や距離をとることに気を付けて調理する。 ・ 調理実習マニュアルに則り、手指の消毒 や距離をとることに気を付けて食べる。	トマトに手を伸 ばすことができ る。(児童観察) 調理で道具を選 び、調理の作業 をすることがで きる。(児童観 察) ・ トマトの味等 に触れ、感じた 思いを表情や発 声、身ぶりで表 現することがで きる。(児童観 察)
5分 ま と め	本時のまとめと次回の授業内 容を聞く。 おわりのあいさつをする。	・ 今回練習した調理方法を活かして次回 は調理実習をすることを伝えることで見 通しが持てるようにする。 ・ 授業の終わりを意識できるような言葉 かけをする。	

●概念化シート



「からだ」(体育) 学習指導案

府立中津支援学校

T 1	丸山	裕史 (作成者)
T 2	吉村	盛史
T 3	野島	香織
T 4	高畑	有明子
T 5	川前	寛
T 6	萩野	美穂
T 7	安田	薫
T 8	志治	美栄

1. 日時 令和6年10月24日(木) 第5, 6時限(13:20 ~ 14:15)
2. 場所 多目的ホール
3. 学部・学年・組 小学部 AB高グループ 10名
4. 単元(題材)名 「サーキット運動でからだを動かそう」

5. 児童観

本学習グループは、4年生1名、5年生4名、6年生5名であり、運動・認知面ともに発達段階は様々である。認知面の発達は、言語理解に課題のある児童や、二語文での要求ができる児童、問いかけに簡単な言葉で応じることができる児童など、学習グループ内でも幅が広い。運動面に関しては、手引き歩行をする児童や、ウォーカーで歩くことができる児童、独歩での移動が可能な児童などである。

「からだ」の学習では、身体を動かすことが好きで様々な運動に意欲的に取り組み、できることを増やしていく児童や、普段は身体を動かすことに消極的であるが、場面によっては自発的・積極的に身体を動かすことができる児童、移動することは難しいものの身体を動かすことに意欲的な児童などがいる。どの児童も、声援が飛び交うようなにぎやかな雰囲気の中で、自分の力を発揮しようとする様子が見られることから、授業においての環境設定や雰囲気づくりが重要であると考ええる。

得意なことをさらに高めること、不得意なことにチャレンジすることなど、児童にあった課題設定をすることにより、自ら動くことの楽しさを感じ、できることを増やすことを主なねらいにしている。

6. 単元(題材)目標

- (知・技) 多様な動きをつくる運動に慣れ親しみ、身体を動かすことができる。
- (思・判・表) 運動の楽しさや心地よさを味わうために身体を動かすことができる。
- (主) 主体的に学習に取り組むことができるようになる。

7. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 教師と一緒に、楽しく身体を動かすことができる。	① 身体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できる。	① 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をしようとする。
② 自発的に身体を動かすことができる。	② 練習の成果をみんなの前で披露することができる。	② 課題に繰り返し、取り組もうとする。

8. 単元の指導と評価の計画（全5時間、本時は第5時）

次	時	学習内容・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第1	1	・新しい準備体操をする。 ・ウォーキング、ランニングをする。 ・得意なサーキットに取り組む。	・手本を見せながら丁寧に準備体操を行う。 ・児童の意欲を高めることができるように称賛や助言をする。	A① A② B① C① C②
	2	・準備体操をする。 ・ウォーキング、ランニングをする。 ・得意なサーキットに取り組む。	・手本を見せながら丁寧に準備体操を行う。 ・児童の意欲を高めることができるように称賛や助言をする。	A① A② B① C① C②
第2	3	・準備体操をする。 ・ウォーキング、ランニングをする。 ・得意な事、苦手な事を組み合わせたサーキットに取り組む。	・手本を見せながら丁寧に準備体操を行う。 ・児童の意欲を高めることができるように称賛や助言をする。 ・身体の動かし方が分かるように支援する。	A① A② B① C① C②
	4	・準備体操をする。 ・ウォーキング、ランニングをする。 ・得意な事、苦手な事を組み合わせたサーキットに取り組む。	・手本を見せながら丁寧に準備体操を行う。 ・児童の意欲を高めることができるように称賛や助言をする。 ・身体の動かし方が分かるように支援する。	A① A② B① C① C②
	5	・準備体操をする。 ・ウォーキング、ランニング ・得意な事、苦手な事を組み合わせたサーキットに取り組む。	・手本を見せながら丁寧に準備体操を行う。 ・児童の意欲を高めることができるように称賛や助言をする。 ・身体の動かし方が分かるように支援する。	A① A② B① C② C①

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

- (知・技) 準備体操、ウォーキング、ランニングに各自の方法で取り組むことができる。
- (思・判・表) 体を動かした際の気持ちを各自の方法で表現する。
- (主) 決められた課題に繰り返し取り組むことができる。

(2) 本時の評価規準

- (知・技) 楽しく準備体操、ウォーキング、ランニングができる。
- (思・判・表) 発声や表情等で、体を動かした際の気持ちを表現する。
- (主) 決められた課題に繰り返し取り組む。

(3) 本時の ICT 活用のポイント（活用のねらい、工夫する点）

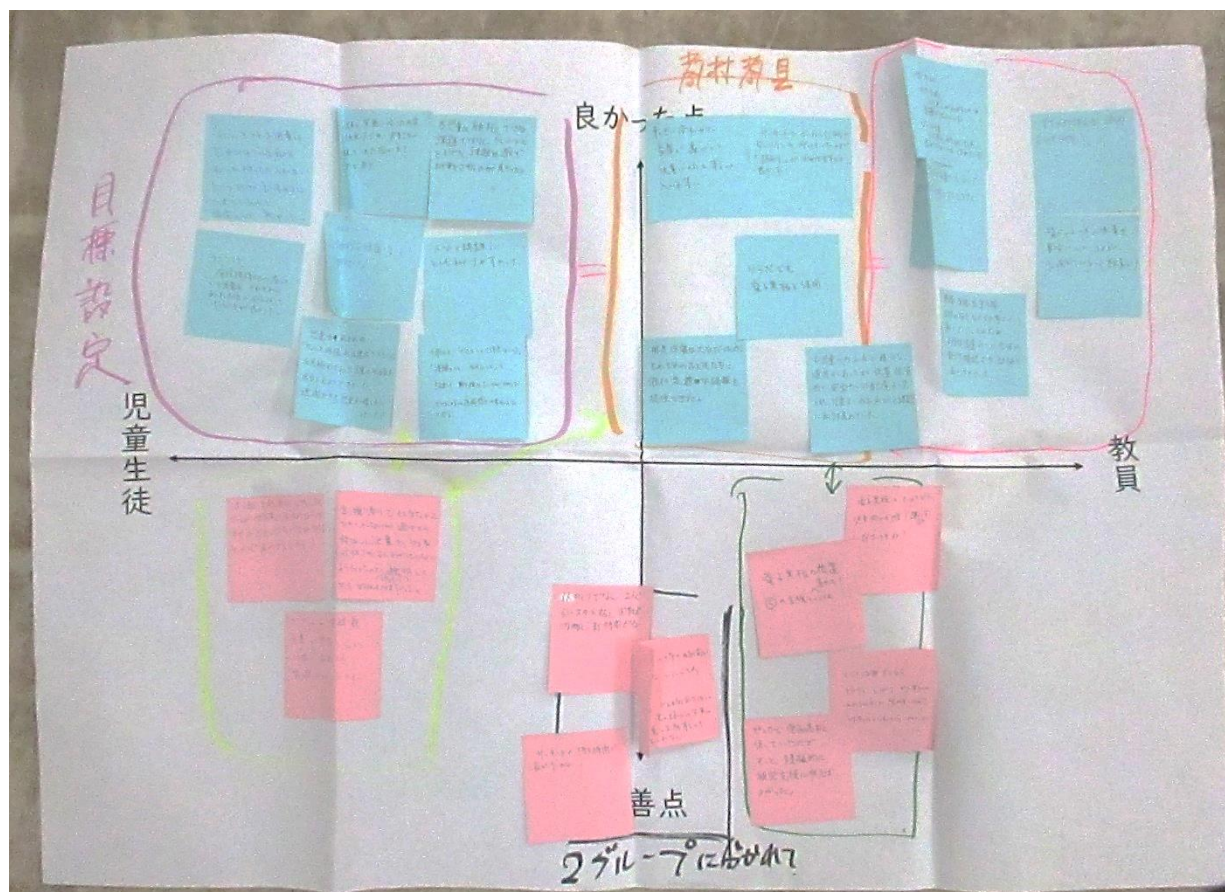
- ・児童が見通しをもてるように電子黒板を使って学習の流れを示す。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
15分 導入	・挨拶をする。 ・準備運動をする。 ・ウォーキング、ランニング	・授業のはじまりを意識できるようにする。 ・児童の様子をよく観察し、体調等の把握に努める。 ・手本、動画を見せながら準備体操を行う。 ・児童同士の接触がないよう注意する。	A①② B①
30分 展開	・学習の流れと目標を確認する ・一人ずつ順番にサーキットを行う。	・自分の目標を発表する場面を設定するなどして、一人ひとりが目標を意識できるようにする。 ・電子黒板に順番と内容を示す。 ・児童一人で課題に取り組む際は、安全に配慮しながら児童の動きを引き出せるよう支援する。 ・音楽を流し、楽しい雰囲気の中で活動できるようにする。 ・児童の意欲を高めることができるように称賛や助言をする。	A①② B①② C①②

5分 ま と め	・本時のふりかえりと次回の授業内容を聞く。 ・挨拶	・良かった点等の評価を伝え、達成感を味わうことができるようにする。 ・授業の終わりを意識できるようにする。	B①② C①②
-------------------	--	--	------------

●概念化シート



「算数」（かず）学習指導案

府立中津支援学校

T 1 福岡 歩美

T 2 峯 麻美

T 3 小林 はるか

T 4 吉村 絵里子

1. 日時 令和6年10月2日（水） 第3時限（10:55 ～ 11:25）
2. 場所 CR 1 教室
3. 学部・学年・組 小学部Cグループ 4名
4. 単元名 カレンダー 数字を書こう、くらべてみよう（長い・短い）
5. 単元目標

- ・ 数字を書く時に、直線や曲線を意識しようとしている。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ カレンダーを見て、今日の日付や曜日、明日の日付を理解できる。（知識及び技能）
- ・ イラストや具体物を用いて比較しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

◎ 本単元におけるキャリア教育の目標

身近なものの「長い・短い」を調べる活動を自ら進んで意欲的に取り組む

6. 児童観

本学習グループは、2年生1名、3年生2名、5年生1名、計4名で構成されている。複数の学年が合同で授業を行っているが、「かず(算数)」の授業以外に、「からだ(体育)」や「ことば(国語)」においても、1学期から一緒に活動しているため、本グループでの学習環境に慣れている。

各児童の実態は様々であるが、発問に対して自ら手を挙げて発表する、自分の考えや思いを言葉や動作を用いて相手に伝えることにより、児童同士や指導者とコミュニケーションを取る等、学習への興味関心が高い。また、歌やダンスが好きな児童が多いため、「曜日の歌」を歌って曜日を知る、身体を動かすゲームを取り入れる等、音楽を効果的に活用することで学習への興味関心が高まると考える。

7. 教材観

本学習グループの児童は、鉛筆で文字を書く時に枠線からはみ出たり、筆圧が薄くなったりすることがある。数字の書き始めと終わりに印をつけた数字のプリントを用いることで、直線や曲線を意識しな

がら数字を書くことができる教材であると考える。

毎朝のホームルーム活動で「今日の日付」を声に出して確認しているため、カレンダーは児童にとって身近な物である。1ヶ月のカレンダーから、今日の日付や曜日を見つける学習を通して、カレンダーを見て日常生活の見通しを持つことができるように教材を設定した。

「長い・短い」で用いる教材は鉛筆や消しゴム、積み木等と児童にとって身近なものを設定した。普段から使用している道具等を使用することで、よく目にしている物の違いに気づきやすいと考えられる。また、本学習の「くらべてみよう」の学習を通して、「長い・短い」や前時「重い・軽い」等、2つのものを比べることについての技能の定着を図り、今後の学習に発展させていきたい。

8. 指導観

数字を書く学習では、プリントを使い、枠線からはみださないように数字をなぞる練習を行う。また、数字の見本を電子黒板に示し、形を確認できるようにする。この学習を行うことで、数字の形を知り、形を意識しながら書くことをめざす。なぞれるようになった児童には、次のステップとして視写のプリントを用意し、形を意識して一人で書けることをめざす。

次にカレンダー学習では、児童の手元にあるカレンダーを使用し、確認した日付に丸シールを貼る。曜日は、日付の列の一番上を見ると分かることを電子黒板に示しながら確認する。また、「今日の隣が明日」ということを事前に貼った今日の日付のシールと照らし合わせながら確認することで、「今日」と「明日」について、カレンダーを見て分かるようにしていく。

最後に、「長い」「短い」という言葉を使って、物の長さを比べる学習を行う。鉛筆や本の長さを紙テープで測って比較し、長さの違いを知る。具体物を用意することで、児童の興味を引き出すことができると考える。比べる学習を行うことで、「長い」「短い」という言葉を日常生活で使ったり、量の大きさの違いに気づいたりすることが期待できると考える。

9. 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 電子黒板を見て、数字の形を確認している。	① 見本を見て、丁寧に数字を書こうとしている。	① 書き終わった時に「できました」と自分なりの方法で伝えようとしている。
② カレンダーを見て、月、日、曜日を確認している。	② 質問されたことについて、カレンダーを見て考えている。	② 質問されたことについて、積極的に発表しようとしている。
③ 「長い・短い」の違いを身に付けている。	③ イラストや具体物等に触れて、「長い・短い」と自分なりの方法で表現しようとしている。	③ 学習や生活の中で具体物等を比較しようとしている。

10. 単元の指導と評価の計画（全 10 時間、本時は第 10 時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1 2	○プリント学習 ○カレンダー ○「高い・低い」	・数字の「2」、「3」を書く。 ・カレンダーを用いて、今日の日付や曜日等を確認する。 ・具体物やイラストを見て比較し、「高い・低い」と表すことを知る。	・丁寧に書くことができるように言葉かけをする。 ・手元にカレンダーを用意し確認できるようにする。 ・具体物に触れることができるように手元に用意する。また、電子黒板にイラストを示し、視覚的に分かりやすくする。	・A①、② ・B①、② ・C①、②、③
2	3 4	○プリント学習 ○カレンダー ○「広い・狭い」	・数字の「4」、「5」を書く。 ・カレンダーを用いて、今日の日付や曜日等を確認する。 ・実体験を通して比較し、「広い・狭い」と表すことを知る	・丁寧に書くことができるように言葉かけをする。 ・手元にカレンダーを用意し確認できるようにする。 ・具体物に触れることができるように手元に用意する。また、電子黒板にイラストを示し、視覚的に分かりやすくする。	・A①、② ・B①、② ・C①、②、③
3	5	○プリント学習 ○カレンダー ○「深い・浅い」、 「厚い・薄い」	・数字の「2」、「3」を書く。 ・カレンダーを用いて、今日の日付や曜日等を確認する。 ・実体験を通して比較し、「深い・浅い」、「厚い・薄い」と表すことを知る	・丁寧に書くことができるように言葉かけをする。 ・手元にカレンダーを用意し確認できるようにする。 ・具体物に触れることができるように手元に用意する。また、電子黒板にイラストを示し、視覚的に分かりやすくする。	・A①、② ・B①、② ・C①、②、③

4	6 7	○プリント学習 ○カレンダー ○「重い・軽い」	・数字の「4」、「5」を書く。 ・カレンダーを用いて、今日の日付や曜日等を確認する。 ・実体験を通して比較し、「重い・軽い」と表すことを知る。	・丁寧に書くことができるように言葉かけをする。 ・手元にカレンダーを用意し確認できるようにする。 ・具体物に触れることができるように手元に用意する。また、電子黒板にイラストを示し、視覚的に分かりやすくする。	・A①、② ・B①、② ・C①、②、③
5	8 9 10	○プリント学習 ○カレンダー ○「長い・短い」	・数字の「2」、「3」を書く。 ・カレンダーを用いて、今日の日付や曜日等を確認する。 ・具体物やイラストを見て、比較し、「長い・短い」と表すことを知る。	・丁寧に書くことができるように言葉かけをする。 ・手元にカレンダーを用意し確認できるようにする。 ・具体物に触れることができるように手元に用意する。また、電子黒板にイラストを示し、視覚的に分かりやすくする。	・A①、②、③ ・B①、②、③ ・C①、②、③

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ 数字の形を確認し、丁寧に数字を書くことができる。
- ・ 今日の日付や曜日を確認し、カレンダーに印をつけることができる。
- ・ どちらが長い・短いかの質問に対して、自分なりの方法で発表することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 見本を見て、丁寧に数字を書こうとしている。
- ・ 月、日、曜日を言い、カレンダーを見て日付や曜日の場所を確認している。
- ・ 紙テープの長さを比べて、どちらが長い・短いを発表する。

(3) 本時で扱う教材・教具

電子黒板、カレンダー、プリント、えんぴつ、紙テープ、本、ものさし、ファイル、積み木、ペン

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	・ 日常生活において話をすることが好きだが、発表やみんなの前に出ると、ためらってしまう。教師の促しで言葉が出ることもある。 ・ 課題活動や宿題等で数を数えたり、数字を読んだりする学習に取り組んでいる。数字を書くことは練習中である。 【関連する自立活動の内容】 ・ 人間関係の形成 ・ コミュニケーション	・ 枠内からはみださずゆっくりなぞることができる。 ・ カレンダーを見て、今日の曜日を探することができる。 ・ イラストや具体物を見て、長い方を選び、発表することができる。	・ 見本を見て、数字を丁寧になぞることができるように言葉かけをする。 ・ 曜日を確認するときは、日付の列の一番上を見ると分かるということを促す。 ・ 発表する時、一人で話すことを約束する。また、「せーの」のかけ声で始まりが言いやすいようにする。	・ A①、③ ・ B①、②、③ ・ C①、②、③
B	・ 自信があることは積極的に発言しようとする。 ・ 数字を数えたり、数字を模写して書いたり、かずの学習に対して意欲的である。 【関連する自立活動の内容】 ・ 人間関係の形成 ・ コミュニケーション	・ 小さい数字も、丁寧に数字をなぞることができる。 ・ カレンダーを見て、今日の曜日を発表することができる。 ・ イラストや具体物を見て、長い方を選び、発表することができる。	・ 見本を見て、数字を丁寧になぞることができるように言葉かけをする。 ・ 曜日を探することができるように言葉かけをする。 ・ 「ながい」と言えるように、はじめの「な」を指導者が言い、発表できるよう促す。	・ A①、③ ・ B①、②、③ ・ C①、②、③
C	・ 一つの指示に対して何度か言葉かけが必要である。 ・ 11～20 までの数字カードを一人で並べたり、10 以上の数を数えたりできる。繰り返し学習する意欲があり、かずの学習に積極的に取り組む。	・ 枠線からはみ出ないように丁寧になぞることができる。 ・ カレンダーを見て、明日の日付を発表することができる。	・ 見本を見て、数字を丁寧になぞることができるように言葉かけをする。 ・ 「今日の隣が明日」と示しながら、明日の日付に丸を付けて、明日が何日なのか分かりやすくする。	・ A①、②、③ ・ B①、②、③ ・ C①、②、③

	【関連する自立活動の内容】 ・人間関係の形成 ・コミュニケーション	・イラストや具体物を見て、長い方を選び、発表することができる。	・発表するときの見本を示し、一人で発表できるようにする。	
D	・学習に積極的で、指示を聞いて活動に取り組むことができる。 ・1～10までの数字を聞いて書いたり、11～20までの数字カードを一人で並べたりと、かずの学習に意欲的に取り組む。 【関連する自立活動の内容】 ・心理的な安定 ・人間関係の形成 ・コミュニケーション	・見本を見ながら一人で数字を書くことができる。 ・今日の日付を発表することができる。	・集中して書くように言葉かけをする。 ・「今日は何月ですか」という質問に対して、手を挙げて答えられるように、発表の時のルールを事前に伝える。 ・発表するときの見本を示し、一人で発表できるようにする。	・A①、③ ・B①、②、③ ・C①、②、③

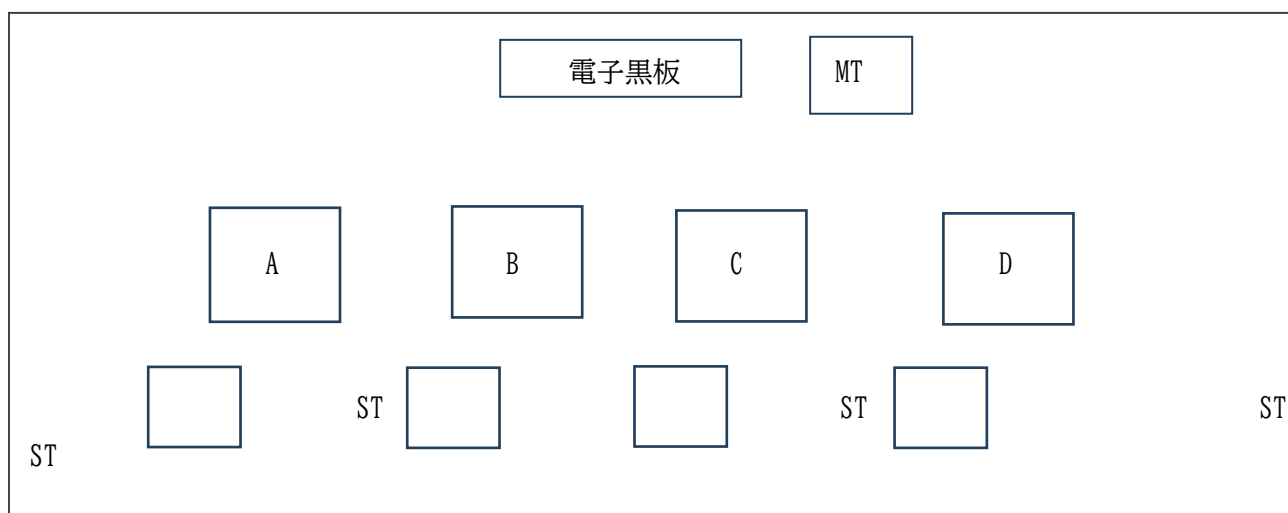
(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等 MT(・)、ST(◎)	評価規準(評価方法)
5分 導入	○始まりの挨拶 ○本時の説明	・始まる前に手提げカバンを机の横にかけるよう言葉かけをする。 ・当番の児童を前に呼び、始まりの挨拶をする。 ・本時の流れを電子黒板に示し説明する。	・電子黒板に注目している。
20分 展開	○プリント活動 ① 鉛筆を出す ② 電子黒板で本日の数字「3」を見る ③ 電子黒板で形を確認する ④ プリントをする	・鉛筆以外の物は机にしまうように言葉かけをする。 ・電子黒板に手本を示す。 ・「3」の書き始めと終わりに丸シールを貼り、始めと終わりを意識できるようにする。 ・丁寧に書くことができるよう言葉かけをする。 ・机間指導を行う ◎丁寧に数字をなぞったり、書いたりすることができるように言葉かけをする。 ◎各席で丸つけをする。	・電子黒板に注目している。 ・A② ・B② ・C②

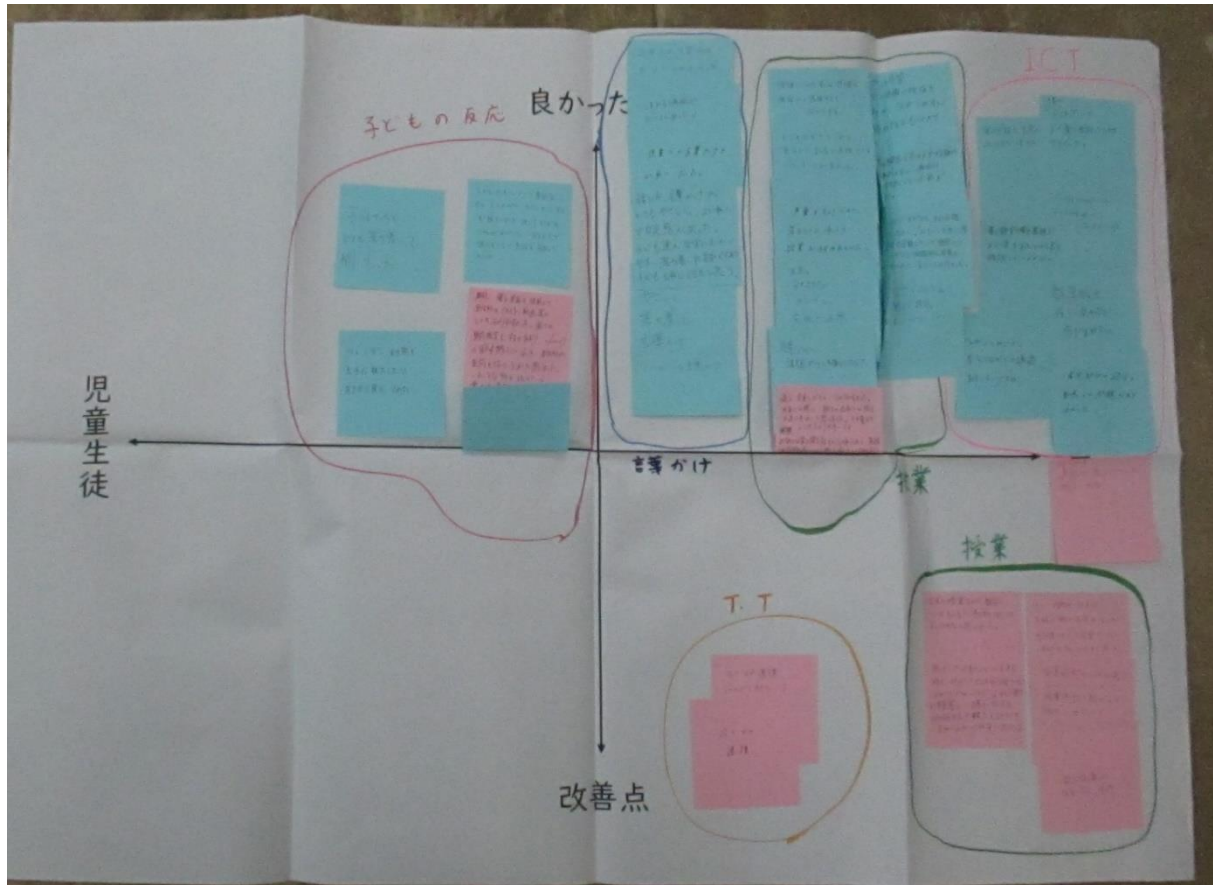
⑤ 振り返り ○カレンダー ① 日付を確認する ② 曜日を確認する ③ 「今日」「明日」が何日なのか確認する ○比べよう（長い短い） ① 本時の振り返り ② 電子黒板に示した絵を見て「長い」「短い」を知る ③ 具体物を用いて比べる	・一人ひとりの良い点を褒める。 ・「～月」「～日」と別々に問い、確認した後、「～月～日」と全員で読む。 ・日付のヒントを電子黒板に示す。 ・カレンダーを見て、今日の日付を見つけたらシールを配る。 ・電子黒板に日付を示し、カレンダーの日付とマッチングができるようにする。 ◎日付探しに困っている児童に言葉かけをする。 ・今日の曜日は何か発問する。 ・日付の列の一番上を見ると曜日が分かることを、電子黒板に示しながら確認する。 ・「今日の隣が明日」と印をつけて電子黒板に示し、明日の日付を確認する。 ◎今日の隣が右の日付であることを、それぞれの児童のカレンダーに示しながら言葉かけをする。 ・本時までの学習を電子黒板に示し、比べることについて児童がイメージしやすくなるようにする。 ・それぞれの児童に対して、どちらが長い・短いかを質問する。 ・児童の身近な物のイラストを電子黒板に示し、長い・短い方の物の名前を発表できるようにする。 ・測る物を選択できるように、鉛筆、ものさし、本、消しゴム、ペン、積み木を準備する。 ・比べる時に分かりやすいように異なる色の紙テープを配る。（A児：青色、B児：桃色、C児：緑色、D児：赤色） ◎児童が選んだ物の長さを、紙テープを使って児童とともに測る。 ◎それぞれの児童が測った紙テープを2名分ずつ並べて、写真を撮る。（AとB、AとC、CとD、DとBの4枚の写真を撮る。） ・2枚ずつ紙テープが並んでいる写真を電子黒板に示し、それぞれの児童が、どちらが長い・短いかを答えることができるようにする。 ・写真を撮り、電子黒板に映すことで質問に答えて	・プリント ・A①、B①、C① ・発表 ・行動観察 ・A③、B③、C③ ・発表 ・行動観察
--	--	--

	④ 振り返り	いない児童にも見えやすくする。 ・「～さんのほうが長い(短い)です」のように発表することができるように手本を示す。 ・文章で伝えることが難しい児童には、「うえ ながい」「した みじかい」のように単語で答えられるように言葉かけをする。 ・一人ひとりでできていたことを褒める。	
5分 まとめ	○授業の振り返り	・本時の学習を振り返る。 ・次時のかずの授業の内容を示し、見通しが持てるようにする。	

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）



●概念化シート



「自立活動（集団）」指導略案

小学部C高グループ

日時：10月7日（月）6限

本時のねらい： カラーポッチャについて知る

本单元におけるキャリア教育の目標

- ・ 集団に参加し、役割を果たそうとする。
- ・ 自分に必要な情報に気づく
- ・ うまくいかなかったことについて考え、やりなおす。

単元の指導と計画（全4時間、本時は第1時）

次	時	学習内容
第一次	1	カラーポッチャを知る
	2	カラーポッチャに慣れる
第二次	3	上手に得点をとるにはどうすればよいか考える
	4	自分の順位(スコア)を自分で確認する。

本時の学習過程

時間	内容	児童生徒の動き	指導上の留意点・支援の手立て等
13:55	はじまりのあいさつ	あいさつをする。	授業のはじまりを意識させる。
14:00	カラーポッチャを知る	スポーツの集いで行っているポッチャとの違いを知るため、モニターで説明の動画を見る	シートの色を意識させて、赤色、黄色、青色があること、中心に近い色のほうがスコアがよくなることを知らせる。
14:10	カラーポッチャをする。	順番を守って、適切な投球場所に立つ。 ボールを持って狙って投げる。 ボールの止まった場所と同じ色のカードをホワイトボードに貼る 以下1(2)回繰り返す。	投げる順番、投げる場所のきまりを意識させる。 中心の赤色のシートを意識して、狙ってボールを投げるように促す。

13:25	結果発表	自分と、友だちのスコアを見る。	自分のスコアと、友だちのスコアを見比べ、だれが一番良かったか視覚的にとらえさせる。 スコアの良しあしによって、勝ち負けがあるが、気持ちを落ち着けて結果を認めるように促す。
14:30	まとめ 終わりのあいさつ	授業を振り返る。 あいさつをする	児童の良かったところなどを言葉にして意識させる。 授業の終わりを意識させる。

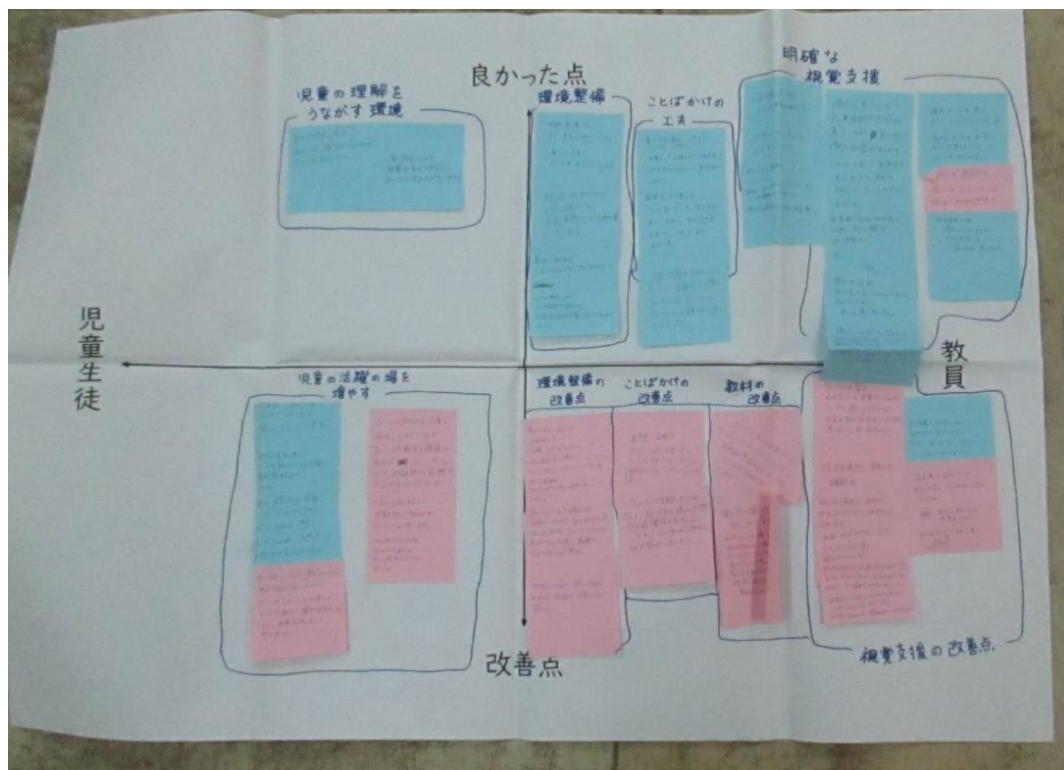
準備物・隊形等

ボッチャボール一式、得点シート、スコアカード一式

本時のねらいを達成するための工夫・見所等

スポーツの集いのボッチャでは、数字による得点と、狙いどころが分かりにくい所などを児童の発達に合わせて視覚的にとらえやすいように、シートを色分けする、スコアもカードを用いて棒グラフ状にするなどの変更を行いました。中心部を狙って投げることで目と手の協応動作の向上、カードによるスコアシステムで自分のとったスコアがわかりやすいことでの取組みに対する興味関心の向上に役立つ教材になっています。

●概念化シート



「自立活動（朝の会）」指導略案

中学部D Eグループ

日時： 10 月 24 日（木） 2 限

本時のねらい： タブレット端末の写真をタップし、出席の意思表示をする。

本單元におけるキャリア教育の目標

- ・「タブレット端末の写真をタップすることで出席していることが表示される」ことを知る。
- ・指導者と一緒にタブレット端末に手を伸ばし、出席の意思表示動作を受け入れる。

単元の指導と計画（通年）

次	時	学習内容
第一次	1 学期	・ 係の仕事： スイッチを操作し、司会進行をする ・ 身だしなみ： 顔ふき ・ 出欠確認： 名前カードをホワイトボードに貼り、出席を示す ・ 日付、天気、予定の確認
第二次	2, 3 学期	・ 係の仕事： スイッチを操作し、司会進行をする 日めくりカレンダーをめくる 顔ふきタオルを回収する ・ 身だしなみ： 顔ふき ・ 出欠確認： タブレット端末の顔写真をタップし、出席を示す ・ 日付、天気、予定の確認

本時の学習過程

時間	内容	児童生徒の動き	指導上の留意点・支援の手立て等
9:45	始まりの挨拶 おはようの歌	・日直は前の席で、タブレット端末とスイッチを使用し、司会進行をする。 ・号令に合わせて挨拶をする。 ・歌に合わせて、日直が順に生徒を回る。 ・指導者と一緒に呼名し、呼名さ	・生徒の実態にあったスイッチを使用する。 ・号令をよく聞いて挨拶するよう、言葉かけをする。 ・生徒同士が互いに出しやすい手の方向に姿勢を整える。 ・生徒の実態に応じて、一緒に手

9:50	身だしなみ（顔ふき）	れた生徒は返事をして、互いに握手またはタッチをする。 ・濡れタオルで顔をふく。 ・タオル回収の当番は、洗濯カゴを持って、使い終わったタオルを回収する。 ・洗濯カゴが回ってきたら、タオルを入れる。	を伸ばすなどの支援をする。 ・顔のどの部分を拭くか言葉かけをし、見通しがもてるようにする。 ・表情を確認しながら拭く。 ・洗濯カゴにタオルを入れる際、生徒の実態に応じて、一緒に手を伸ばすなどの支援をする。
10:00	出欠確認	・日直は、指導者と一緒にタブレット端末を持って、順に生徒を回る。 ・日直が回ってきたら、自分の顔写真をタップして、出席を表示させる。	・タブレット端末に目を向けるよう言葉かけをする。 ・肘や腕を支える、タップする場所を限定する枠を付ける、など、自分の顔写真にアプローチしやすいようにする。
10:10	日付、天気の確認	・指導者の話を聞き、日付の確認をする。 ・日めくりの当番は、日めくりカレンダーをめくる。 ・日直は、空の様子を指導者と一緒に確認し、天気カードを選ぶ。	・日めくりカレンダーをめくる際、今日の日付カードを提示する。 ・窓際から空の様子を確認する。
	今日の予定の確認	・指導者の話を聞き、今日の予定を確認する。	・姿勢よく話を聞くよう、言葉かけをする。
10:20	終わりの挨拶	・号令に合わせて挨拶をする。	・号令をよく聞いて挨拶するよう、言葉かけをする。

準備物・隊形等

電子黒板、タブレット端末、スイッチ、電子ピアノ/ギター、濡れタオル、洗濯カゴ、日めくりカレンダー、時間割ボード

本時のねらいを達成するための工夫・見所等

《 出席確認の方法について 》

1学期は、顔写真の下に名前カードを貼っていた。生徒たちは一生懸命貼ろうと何度もがんばり、先生方もなんとか生徒自身で貼れるよう支援を色々と工夫されるので、どうしても時間がかかってしまい、その後の、日付・天気・予定の確認は、さっと流して終わっていた。

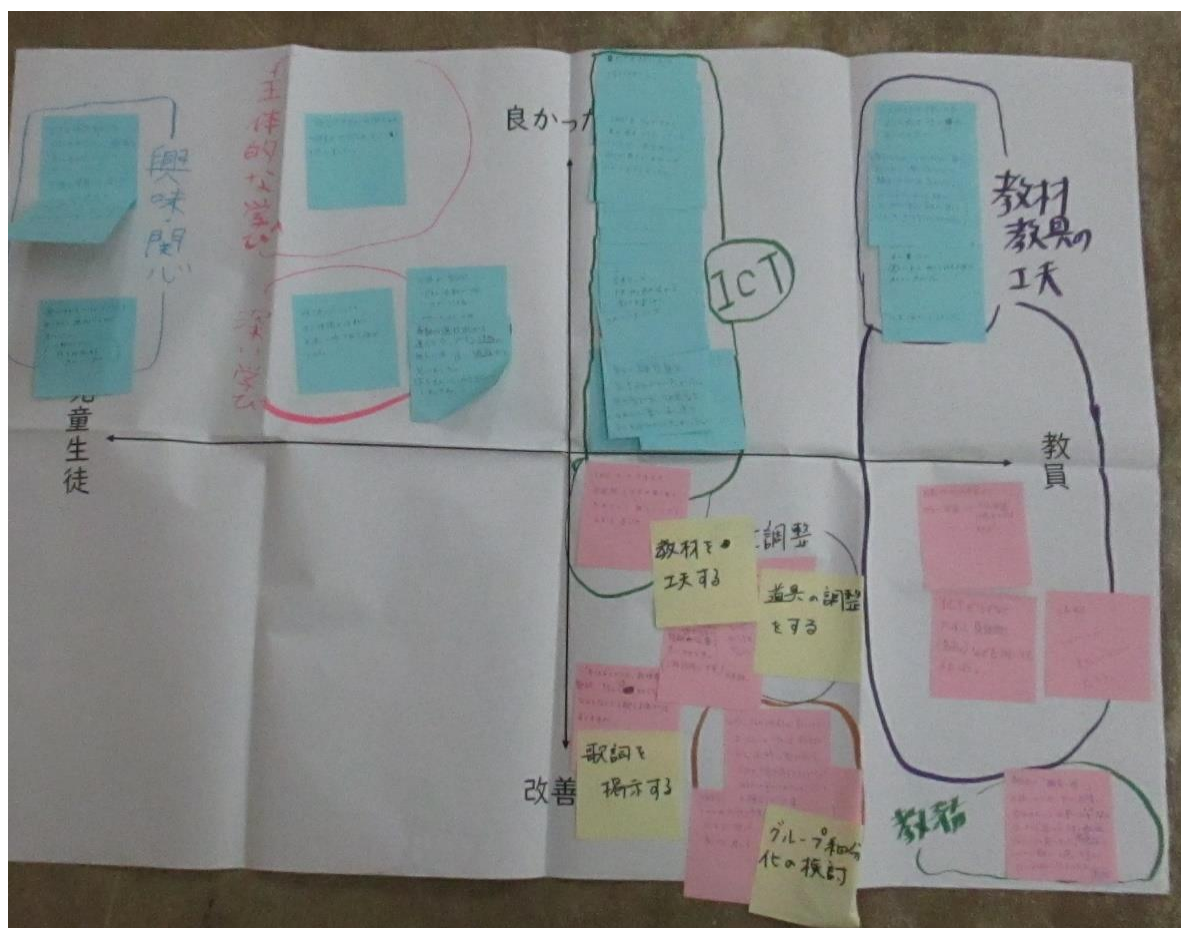
時間短縮かつ生徒が主体的に取り組める方法として、教員の出退勤が札からカード打刻に変わった今、生徒の出席もタッチでできるようにしてはどうかということになった。

使用しているソフトや方法については、まだまだ試行錯誤中ではあるが、生徒たちは徐々に『出欠確認はタブレット端末をタップする』ということに見通しがもててきている様子がみられる。

《 工夫した点 》

- ・ タップできたことがわかりやすいように、効果音をつけた。
- ・ できるだけ誤操作がないように、タッチ調整の設定をしている。
- ・ 視覚的に支援が必要な生徒は、タップする場所が触ってわかるようガイドの枠を付けた。

●概念化シート



「職業・家庭科」(職業家庭) 学習指導案

府立中津支援学校

T 1 ジョーンズ和可子 (作成者)

T 2 川田早桂

T 3 小笠原智恵

T 4 磯邊彩

1. 日時 令和6年10月3日(木) 第5時限(13:05~13:50)

2. 場所 CR 7, 8

3. 学部・学年・組 中学部第1~3学年(FGグループ) 8名

4. 単元(題材)名 「机拭き清掃技能検定にチャレンジ」

5. 単元(題材)目標(本単元におけるキャリア教育の目標)

- ・ 職業生活に必要な知識・技能について学び、意欲的な態度で学習に取り組もうとする。
- ・ 机拭きの正しい手順を学び、手順に沿って机拭きに取り組むことができる。

6. 生徒観

本学習グループは、実態に応じて下学年対応の授業や知的障がい支援学校学習指導要領に基づいた授業を行っており、1年生が2人、2年生が3人、3年生が3人の計8人の生徒で編成している。障がいの状況は様々であり、とりわけ身体面については、独歩可能な生徒や車椅子の自走可能な生徒、指導者による介助を要する生徒、片麻痺のある生徒や腕の可動域に制限のある生徒が在籍するなど、その状況は多様である。また、認知面・コミュニケーション面における発達段階も幅広い。一方で、学習集団としてのまとまりがあり、ICTを活用した一斉指導による学習場面においては、全ての生徒が高い意欲関心をもって取り組む姿勢がみられる。

本校中学部では、進路学習としてワークキャリア体験や進路見学、進路実習、職場体験等の様々な取り組みを進めている。生徒は職業学習への関心意欲が高く、積極的に取り組んでいる。しかし、中学生段階であるということを踏まえると、高等部卒業後の自身の進路や生活への具体的なイメージをもつことは難しい状況にある。

高等部卒業後の進路や生活に関わって、本校の生徒は、日常生活の中で実際に掃除をする機会は少ないものの、日々の学習活動や前年度キャリア教育の一環として高等部で実施した机拭き清掃技能検定に関わる取り組みを通して体験を積み重ねている。

机拭き清掃技能検定は、本校高等部の職業科で実施している。ワークキャリア体験として小学部、中学部の児童生徒が高等部の生徒と共に授業を受ける機会を設けていることで、例えば、実習した内容をよく覚えているなど生徒にとって親しみや継続性のある活動となっている。中学部で実施している机拭き清掃技能検定について、手順は高等部と同じであるが、発達段階に応じて評価基準はアレンジした。また、技能を習得出来たら項目ごとに丸を付けるチェックシートを活用し、合格時には合格証を渡すことで生徒のモチベーションを高め達成感を感じられるようにしている。さらに、机の拭き方などの技能の習得のみならず、高等部の職業学習で必要となる身だしなみや報告・連絡・相談・言葉遣い・態度など幅広く学習することもねらいとしている。併せて、練習では、生徒同士で教え合い、協力する場面を設けることにより、机拭き掃除技能検定の手順や方法の理解を深めるとともに、協力して仕事に取り組むことの大切さについても学んでほしいと考える。

7. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 適切な言葉遣い・態度・身だしなみを意識している。 ② 手順に沿って机拭きを行おうとすることができる。	① 必要に応じて報告・連絡・相談をすることができる。 ② 自分の役割を理解し友だちと協力して学習に取り組むことができる。	① 自分の課題を指導者と確認し、意欲的に課題に取り組むことができる。

8. 単元の指導と評価の計画（全12時間、本時は第6時）

次	時	学習内容・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1	進路について 高等部での取組み 中学部で取り組む机拭き技能 検定について	・高等部卒業後の生活・進路について興味・関心を高められるよう身近な例を出し説明する。昨年度行われた高等部の生徒による机拭き技能検定の取組みを確認し、中学部での取組みについて説明し、見本を見せる。	A①
2	2	机拭き技能検定の手順の確認	机拭き技能検定の手順を順に確認する。 モニターに手順表を映しながら行う。 説明後手順を確認しながら全員で取り組む。	A②
	3～ 8	机拭き清掃技能検定の練習	・『Kahoot!』により手順の確認。 ・生徒の習得段階に合わせてグループ分けを行い、生徒やグループごとに時間内での取組みの目標を明確にする。授業後は振り返りの時間やチェックシートへの記入を行い達成状況を分かりやすくすることで、意欲的に取り組めるようにする。 ・生徒が先生役として友だちに教えるようにグルーピング、役割分担し互いに学びあえるように場面設定をする。	A①② B①② C①
3	9～ 11	机拭き清掃技能検定	・チェックシートにすべて丸をもらえた生徒が、白いポロシャツ・黒のズボンで身だしなみを整え検定に取り組む。検定の様子はタブレット端末で撮影し、振り返りを行う。 ・教員はオンラインで採点を行い合否がその場で分かるようにする。 ・合格した生徒には合格証を渡す。	A①② B①② C①
	12	ふりかえり	・生徒全員の机拭き清掃技能検定のチェックシートを振り返り、できるようになったことや努力して取り組めた事を発表する。 ・今後の課題について確認する。	C①

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ 自分の目標を理解し、意欲的に学習に取り組むことができる。
- ・ 机拭き清掃技能検定の手順や方法にそって練習することができる。

(2) 本時の評価規準

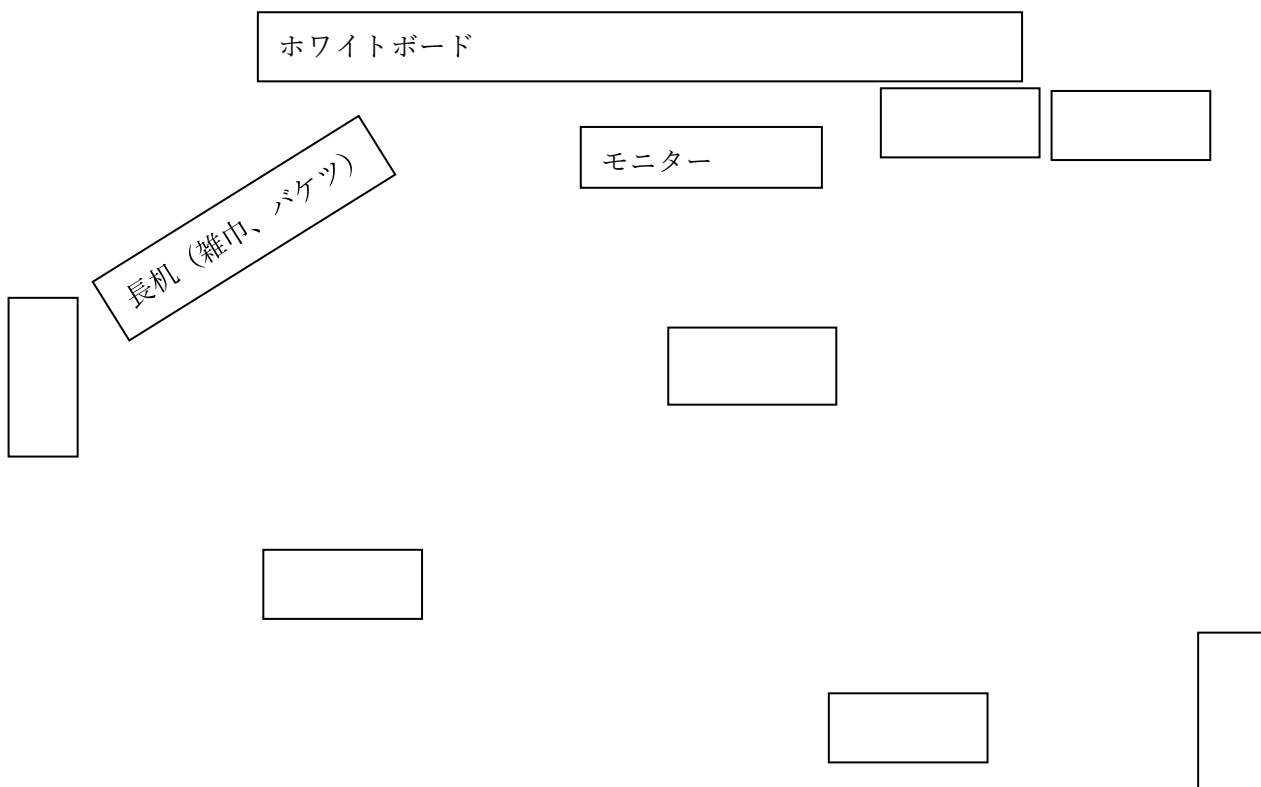
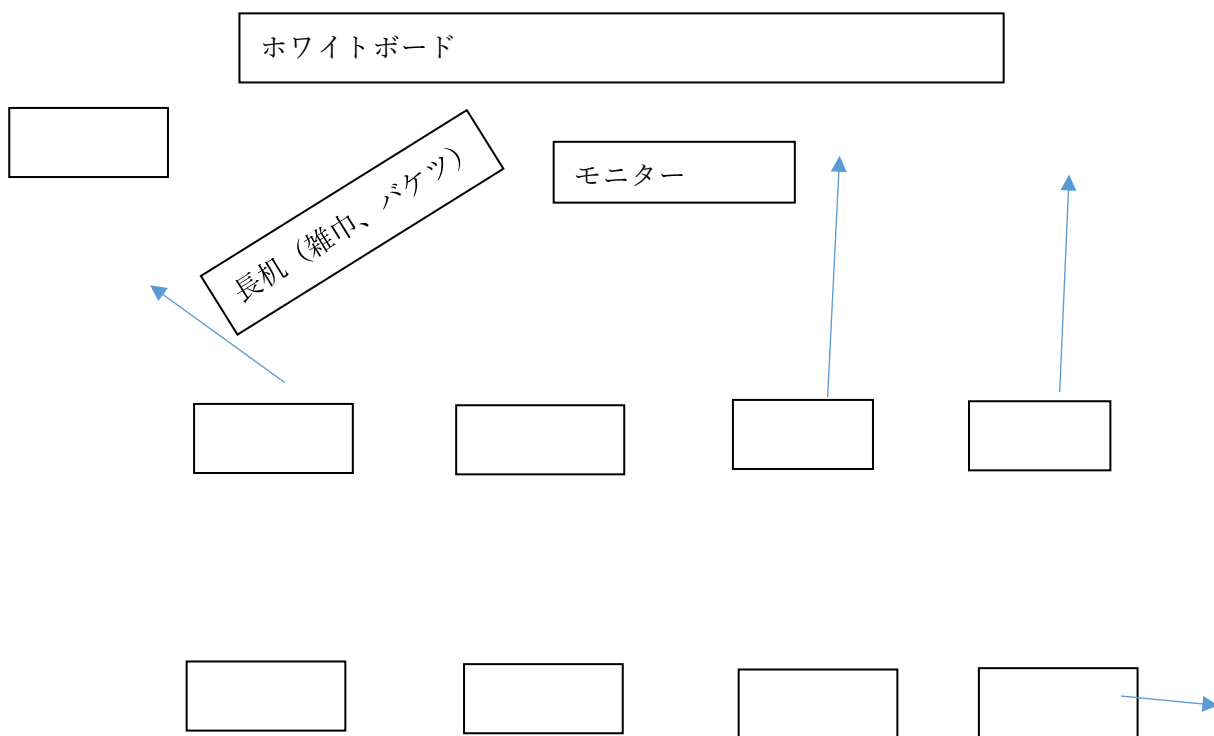
- ・ 個人の目標を理解し、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 机拭き清掃技能検定の手順を教員や指導者と確認をし、指導を受けながら正しい手順で練習に取り組もうとすることができる。

(3) 本時の ICT 活用のポイント（活用のねらい、工夫する点）

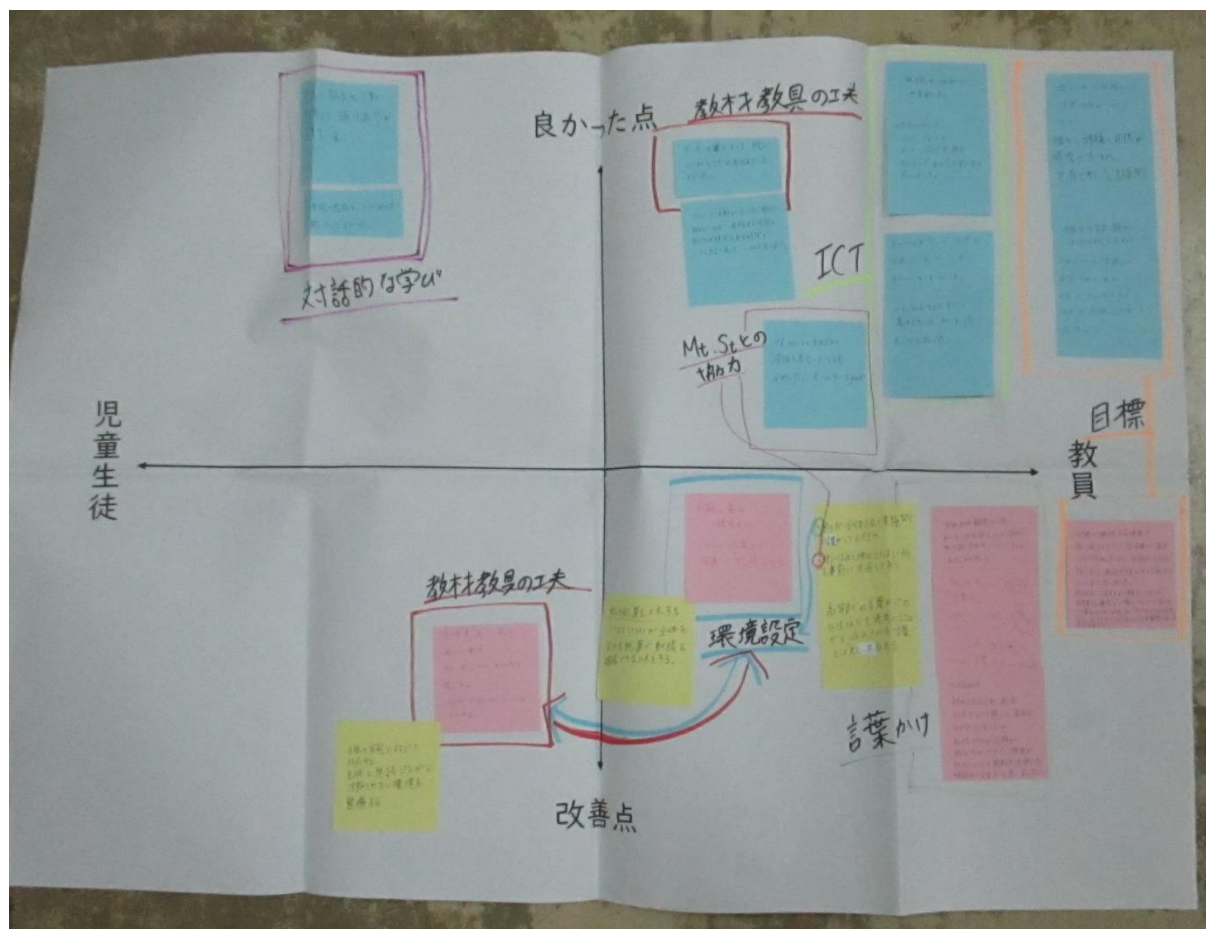
- ・ 『Kahoot!』を使い手順を確認することで肢体不自由により、作業が難しい生徒の理解度を確認する。
- ・ 導入で各自の目標をモニターに映すことで、生徒や他の教員と共有をする。
- ・ 振り返りにおいても同じ画面で目標を達成できたか確認をすることで、達成感ややりがいを感じるよう支援する。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
10分 導入	あいさつ 前時の振り返り 学習内容の確認	・ 『Kahoot!』 で正しい手順を確認する。 ・ チェックシートをモニターに映し、本時で取り組む目標を確認する。 ・ 学習グループ・担当教員を確認する。 モニターに学習グループを映し出す。	『Kahoot!』の成績 行動観察 (自身の本時の目標を理解している。)
20分 展開	グループに分かれて課題に取り組む。 片付け	・ 各自の目標を達成できるよう、安全に配慮しながら取り組む。 ・ 支援が必要な場合は生徒から依頼を受けて支援する。 ・ 適切な言葉遣いで報告・連絡・相談を行うように指導する。 ・ 指導者役の生徒が他の生徒に教えられるようにサポートする。 ・ 机拭き清掃技能検定の手順に沿って片付けを行う。	行動観察 (自ら支援を依頼することができる。適切な言葉で報告・連絡・相談しようとしている。自分の課題に積極的に取り組むことができる。)
10分 まとめ	振り返り あいさつ	・ 各生徒の取組みの様子を発表する。 ・ モニターに映しながら合格した項目のある生徒のチェックシートに丸をつける。	行動観察 (本時の目標に対する取組みを振り返ることができる)



●概念化シート



「職業家庭（自立活動）」指導略案

高等部D Eグループ

日時： 10月24日（木）1限（9:05～9:45） ＊健康観察等終了後授業開始

本時のねらい： 一日の始まりを意識することができる。《知識・技能》

役割を果たそうとすることができる《思考力・判断力・表現力》

一緒に学習する仲間を意識することができる《学びに向かう力、人間性》

本单元におけるキャリア教育の目標

小学部・中学部で育んだ力を生かし、一人ひとりの課題に応じた「仕事」を意識し担うことで、本校卒業後、地域社会で主体的に暮らす「生きがい」「やりがい」を涵養する。

単元の指導と計画（通年）

次	時	学習内容
		・健康観察 ・日付、天気確認 ・時間割確認 ・一日の予定確認

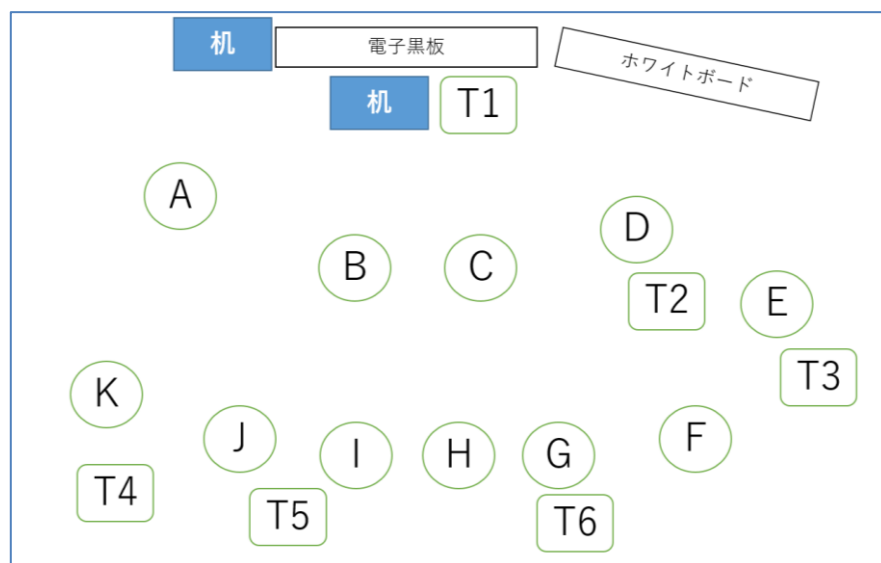
（月）～（金）第一時間目 年間を通して指導

本時の学習過程

時間	内容	児童生徒の動き	指導上の留意点・支援の手立て等
15分 導入 10分	健康観察 「あいさつ」 「朝の会」の歌 出席確認	清拭・トイレ・体温測定など ・「あいさつ」担当に立候補で手を挙げる ・順番を意識する ・一日の始まりを意識する ・呼名に返答する	転倒などに注意し見守る ・生徒の目線の高さを意識して言葉かけする ・誰がどのようなことをしているか具体的な言葉かけをする ・呼びかけに対する自発的な動きを言葉にして伝える ・健康状態を観察する
展開 ① 5分	「天気・日付・曜日」 確認	・電子黒板の画面を見る ・教室の明るさの変化に気づく ・天気カードを選ぶ ・天気グッズを操作する ・日めくりカレンダーをめくる	・実際の天気を感じ取れるようにカーテンを開ける ・選ぶカードがどれか見せる ・視覚支援の必要な生徒中心に具体的な天気グッズに触れる時間をとる（できれば全員触る） ・自分の仕事を意識できるように

展開 ② 10 分	「時間割」確認 「予定」確認	・時間割絵カードを「受け取る」「見る」「選ぶ」「貼る」「渡す」 ・時間割読み上げスイッチを押して授業名を伝える	言葉かけをする ・一人ひとりに応じた課題を出し、達成したらその場でできたことを言葉かけする ・課題を遂行するためのヒントを与える ・自発的な動きを待つ
まとめ 5分	「あいさつ」	・「あいさつ」担当に立候補する ・すでに「あいさつ」担当をしている生徒が立候補した場合は他の生徒に譲る	・自発的な動きがでるまで待つ ・ほかの生徒に譲れた場合は、その場でできたことを伝える ・あいさつを口頭にするかスイッチにするかは、個別に対応する。
	水分摂取	・それぞれのペースで水分摂取する ・見たい動画を指導者に伝える	・待っている生徒は動画などを視聴し、おちついて時間をすごすことができるように促す

準備物・隊形等



準備物

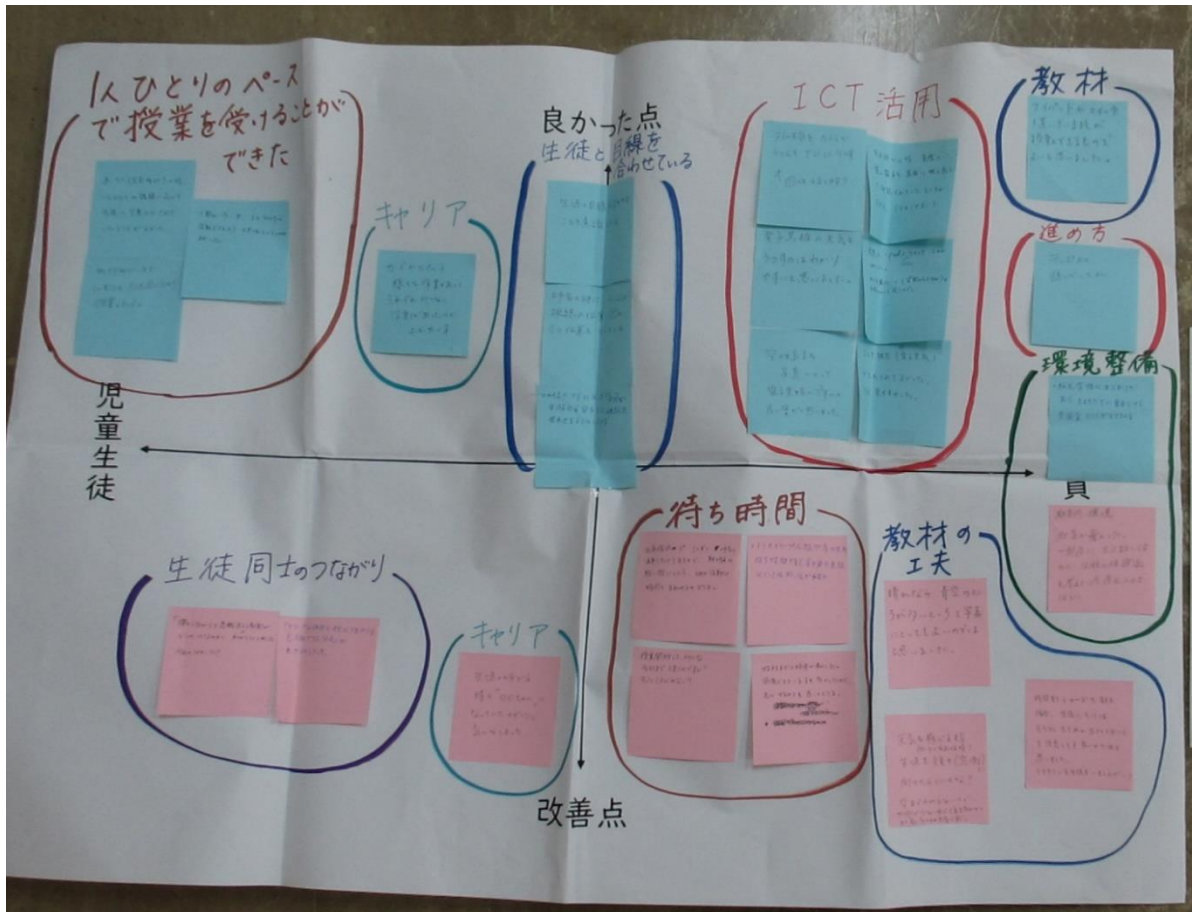
机上：スイッチ
 晴れスイッチ
 学情 iPad
 GIGA iPad
 USB ライトニング
 ふわふわ雲など
 Bluetooth スピーカー

本時のねらいを達成するための工夫・見所等

高等部までに育んできた「力」を生かす場面を、一人ひとりの課題に応じて「仕事」として設定した。指導者と生徒の縦のつながりだけではなく、グループの仲間の横のつながりを意識できる場面を設定した。

水分摂取については、授業内容に含まれるが、一人ひとりお茶を飲む時間が異なることから、授業終了のあいさつをしてから摂取している。

●概念化シート



「情報科」指導略案

高等部学部Gグループ

日時：10月11日（金）5限

本時のねらい：デザインづくりを通して、情報デザインが社会に果たす役割を知る。

本單元におけるキャリア教育の目標

社会一般的によく使用されるソフトを活用した操作方法を習得する。

単元の指導と計画（全5時間、本時は第5時）

次	時	学習内容
第一次	1	・基本的な社会で使用される描画デザインの技術を知る。 ・表計算ソフトとワープロソフトの違いを経験して知る。
	1	・描画用ソフトを使用した基本的な操作を体験する。 ・表計算ソフトの数式挿入方法が役に立つことを知る。
第二次	1	・描画用ソフトによる図形描画と、一般的に多く使用されているソフト（Word）の図形描画を体験し操作方法の特徴を比較する。生徒が自分で作ったデザインの中で自分の作品に使用するデザインをピックアップする。 ・表計算ソフトの数式挿入操作を経験する。
	2	・Word 操作を通して、デザインの技術を活用する。 ・表計算ソフトの数式挿入操作を経験する。

本時の学習過程

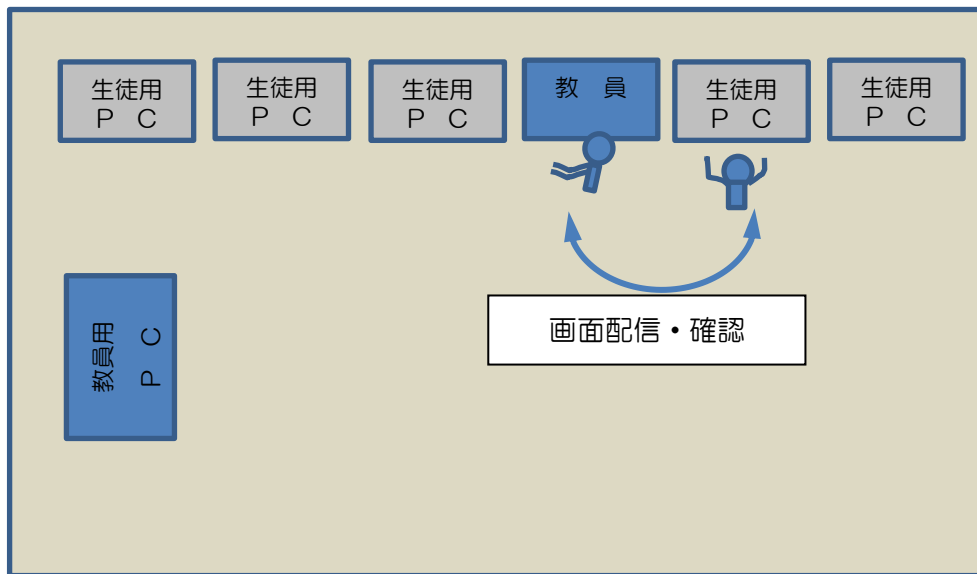
時間	内容	児童生徒の動き	指導上の留意点・支援の手立て等
8分	Excel で簡単な表を作る （タイピング含む）	生徒はプリントを見ながら数表を作成する。	生徒が、速くやろうとして、慌てていれば助言する。数式の操作に慣れることが目的なので、それ以外の部分について迷っているようであれば助言する。落ち着いて考え直せばできる（ことが多い）。
2分	生徒が作った表について 助言する	生徒はモニターの自分が作った表を見ながら振り返る。	作業中の工夫点についてほめる。

5分	前回までに作成したデザインを見ながらその過程で使った手法を復習する (図形内への画像の挿入)	生徒用PCを見ながら説明を聞く。 前回までに活用した操作を思い返して言う	生徒が聞きやすい位置でなおかつモニターを見れる位置に教員がいる。 生徒が、理解不足な表情をしたら説明をさらに細かく区切ってその後の説明→操作を細かくする。
5分	Wordを使用して、キーホルダーのデザインに活用するにあたっての操作方法の説明	生徒用PCを見ながら説明を聞く。	説明が終わったら、生徒用モニターを切り替えるため一旦生徒の横から離れる。なるべく素早く戻って生徒の状態を確認める。 説明の途中で生徒が考えたこと言ったときは生徒の言葉を聞く。
17分	説明した操作を確認しながら説明に不足がないか確かめる。	説明された操作を生徒が体験する。	生徒がうまく操作できているかどうか確かめる。 生徒Aは混乱すると、これまでに経験した操作を試行錯誤する傾向があるが、それもチャレンジさせた上で見守る。指導者もそこを見てこれまでの指導が不十分だったところを見つけて次回の反省材料にする。 生徒が自信をなくさないようにスモールステップでフォローするように注意する。
3分	できた作業の確認	自分が前回までにつくったデザインがキーホルダーの枠に収まっていることを確認する。	うまくいった点、前向きにとらえられるように確認する。

準備物・隊形等

デスクトップPC、コンピュータ教室（ソフト）

配置



本時のねらいを達成するための工夫・見所等

生徒が前向きに作業に取り組めるように、これまでに生徒自身が作った図案デザインを中津まつりで提供するキーホルダーにするという目的を持たせる。目的を持たせることで社会的役割を担う体験にする。

●概念化シート

